

女性部だより

年金者組合
京都府本部
女性部発行
2023年
9月15日発行
(第191号)

「たすけあい 介護サービス」

年金者組合員は介護保険制度を利用した福祉用具使用時の利用者負担分(1割)の助成を受けられます。ベッド、車いすなど13種類。まずは相談してください。

受付窓口

03-6256
-8967

- ・全労連共済共済事業会
- ・日本フロンティアネットワーク

7月5日の女性部総会に出席されなかった支部の方はどうされているのかなど、電話してお話してみました。



大山崎支部

小塩山にカタクリを見に行きました。参加は女性5人と男性2人の総勢7人。コースにはみつばツツジが満開で、足元にはスマレが咲き、馬酔木も咲いていました。小塩山頂上周辺には「西山自然保護ネットワーク」管理するカタクリ保護の園地が3つあります。カタクリの群生に歓声をあげ、カタクリの花が咲くまでに8年かかることも知りました。カタクリ以外にもスマレ、カタバミ、エンレイソウ、チゴユリ、ムラサキケマンなどを見つけました。
(後藤)

北桑田支部

北桑田支部は男性も女性も色々な団体の役職を引き受けている人が多いです。女性も忙しくて、なかなか年金者組合女性部の独自の活動には取り組めていません。でも、何もしていません。ではなく、これ以上は難しいというのが実情です。
(中村)

舞鶴支部

女性の加入が増え、ますます元気になっていきます。「女性の集い」を開催し、会員訪問をしました。プレゼントを渡すとともに、様子を知らることができました。皆さんにとっても喜んでいただいています。男性会員の協力も得、活動できました。今後も大切にしたい活動です。
(堂本)

綾部支部

全国高校の総文祭優勝校の戦争暴力を描いた演劇の中で「死ぬならお花畑がいい」といった女学生に「死なないで！お花畑で生きてほしい」と答えた後輩生徒。目頭が熱くなります。今こそしっかりとお花畑を作り育てていくのが、少しでも実戦体験をいくつも聞いた私たちの責任と思えます。
年金を守ることも、そのお花畑を守り育てることの一つと思えます。
(人見)

原告・支援者集会

8月25日に開かれ、その中で「最高裁 女性の要請行動」の報告をしました(2面に道中記)。京都事案は第2小法廷で受理されました。大法廷へ回付させるよう署名、最高裁長官への手紙など取り組みましょう。

要請行動を報告する参加者



おすすめの一冊
『女性不況サバイバル』
竹信三恵子著 岩波新書

ちよつとがんばらないと読み切れない。でも「なんで日本は？」とか「どうせ変わらん！」とか思っている人に本当は読んでほしい。とてもムリなら目次だけでも見てください、ピピッときます、女なら、そして今を生きている人なら。そういう本です。全部8章のうちピピッと来た章だけ読むのもありかも、著者に叱られそうだけども(笑)。

強烈だったのは「あの人たちは安くてかまわない人たち」のレットル。女だから(産休とるから)、非正規だから(ハケンも男も)、短時間だから(個人事業者もシフトも自由?な働き方)、世帯主がいるから(家計補助、男は女を扶養すべし)、ケア労働だから(主婦は家でタダでやってる)、外国人だから能力が低いから(育休中リスクリング発言) などなど。そのレットルは次々に広げられ、安くてかまわない、急にいつせい休校してもかまわない、いつくビにしてもかまわない、「6つの仕掛け」が日本中に張りめぐらされていることを、明らか



にしています。そしてそのレットルは「沈黙させる、諦めさせる」仕掛けであり、同時に日本の男性の貧困化の温床にもなっています。十分な国の緊急支援対策そのものが、会社を通してや世帯主を通してなどで、一番必要としている本人に届かない仕掛けになっていて、はつきり暴き出しています。私たちが年金生活の女性にとって、大多数の女性を無償労働や低賃金労働の担い手としてとどめておくことが日本の社会構造で大きな意味を持ってきたこと、日本の女性政策が「生きないように死なないように」となっていること、は、本当に実感をもって受け止められる指摘です。いま女性たちが自立した個人として生きることが目指して運動と声を広げていくことが大切だし、この本はその力になると思います。(栗倉恵子)

近畿ブロック

女性のつどいin滋賀

日時 10月4日(水)
受付 12時半から
開会 13時

会場 草津キラリエ5階大会議室
(草津駅改札口の左側東口、
近鉄デパート方面の階段を
下りる。徒歩5分)
TEL 077-561-7700

歓迎コンサート

「湊愛子 愛と平和を歌う」

講演 「環境、食問題から
平和を考える」
山崎万里さん
(家庭栄養研究会顧問)

活動交流

午前10時から「東海道・草津宿めぐり」あります(先着30人)。希望される方は矢吹(090-7111-7484)まで早めにご連絡を。

***会場内で食事はできません。昼食は済ませて来館してください。**

最高裁 女性の要請行動 道中記

まず京都駅、集合時間に見えない方あり電話。ところが駅の騒音で声が聞き取れない。今いる場所を大声で伝えながら見まわしていると「ここやったんか」と急いで来られヤレヤレ。新幹線に乗る間際、委員長の「皆さんの思いの丈を裁判所でしっかり話してね」にみんな「そんなん初めて聞くわ、準備なんかしてへんし」。本当は話す人(2人)は前もって決まっていた。

東京に着いたら階段を上がったたり下ったり。都会はエスカレーターとかEVが当たり前かと思っていました。87歳の方と最後尾を歩いていたら、委員長が発車間際の地下鉄にサッと乗込まれ、えっ、87歳の方に走れと言うの?!「こけそう」と言いながら一緒に走ってくださって無事に乗れましたが。

最高裁の建物はとても大きくて、百人以上集まってもほんの一握りにしか見えません。おまけにカンカン照りで気分がなえそうでした。しかし、全体の代表として中川美智子さんが決意表明されるのを見て、自分もしっかり「女性部だより」に書かなければと思直しました。門前集会后は全教会館での報告集会まで3時間近くの待ち時間。おまけに日陰を求めて数人ずつに分かれてしまい、電話がかかっても気がつかなくなったりして、ちよつと慌てました。しかし、報告集会で「京都から8人参加!」と紹介してもらいわ一っという声が湧いたのは気持ちよかったです。首都圏以外では圧倒的に多数でした。お土産タイムはなし。委員長曰く「お土産見てたら必ず迷子になる人が出るから」。

帰宅後歩数計を見たら1万2千歩超。肝心な時にスマホはあてにならないと、つくづく感じた一日でした。(矢吹)